

「吸血デイベート」

登場人物

水無麗果（みずなし うらか）
煤竹輝（すすだけ てる）
石狩るの（いしかり るの）
蒲田伶（かまた れい）
鵜川そよ（うかわ そよ）
板谷夏樹（いたや なつき）
稲谷拓也（いなたに たくや）
土田ゆうじ（つちだ ゆうじ）

【1】

雷雨の中、煤竹とるのが雨宿りにやってくる。

煤竹 いやあ、まいったまいった。ひどい雨だ。

るの 雷こわあい。

煤竹 大丈夫かい？

るの はい、大丈夫ですっ

棲竹 それならよかった。

るの ちようどよく雨宿りできる場所があつて、よかったですねっ。

煤竹 ああ。家主さんには申し訳ないが・・大きなお屋敷だな。

るの そうですね。こんな場所、知らなかった。

煤竹 おや。

るの どうしたんです？

煤竹 どうやら、鍵が開いてるみたいだ。

るの まあ不用心。

煤竹 だね。外にいても寒いし、中入ってみるかい？

るの えっ、こわあい。

煤竹 ははは、大丈夫だよ。

るの 怒られちゃいませんか？

煤竹 その時は、その時さ。

煤竹、扉を開けていく。

雷鳴。

舞台上には鵜川と板谷がいる。

板谷 あっ。

煤竹 あっ。

板谷 あ、いや、違います・・違います

煤竹 あ、ええと・・

板谷 泥棒とかじゃ、ありません！違います！

煤竹 はあ・・・。

板谷 大丈夫です！大丈夫ですから！

るの あっ！変た・・・

板谷 違います！雨宿りで！たまたま！

るの その、女の子と？

板谷 いや、違って！雨宿りで！たまたま開いてたから、中に入ったら、この子が！

るの 本当？

鵜川 ・・・・

るの え

板谷 間違っていないだろ！ね！？

るの 怖い・・・

板谷 そんなあー！

煤竹 お嬢ちゃん。あのお兄さんが言ってること、本当？

鵜川 ・・・・（頷く）

煤竹 ありがとう。だって。

るの さすが煤竹さん。

煤竹 何もすごいことなんてしてないよ。

るの 小さい子の心開くってなかなかできないですよぉ！

煤竹 子ども好きなんだよね。

るの 素敵ですね！

板谷 ぼ、僕も子供好きですよ！

るの そうですか・・・

雷鳴。

るの きつ

板谷 いやあ！

るの きゃあー・・・

板谷 あ、ごめんなさい・・・

るの ・・・・もう。

煤竹 雨、止みそうにありませんねえ。

るの　　そうですね。
煤竹　扉、閉めましょうか。雨風が入ってきてしまつて、室内にいる意味がなくなつてしまふ。
るの　　そ、そうですねっ！

扉の閉まつていく音。
そこに、水無、飛び込んでくる。

るの　　ぎゃー！
板谷　いやあああ！
鵜川　・・・！
煤竹　な、なんだ！？
水無　（息が荒い）

扉、閉まる音。

水無　すみません・・・私も、雨宿り、させてください。

雷鳴。
転換。

【2】

鵜川、るの、水梨がいる。
そこへ探索を終えた煤竹と板谷がそれぞれ別の方向からやつてくる。

水無　　どうでした？
煤竹　　だめでした。裏口とかもなく。そつちは？
板谷　　だめでした。どの窓もはめ殺しで。
水無　　そうですか。ありがとうございます。
るの　　じゃあ、やっぱり、ドアを開けるしかないですよね。
水無　　そういうことになりますね。

板谷 勝手口ともなかったんですか？

煤竹 こっちはなかったですね。

水無 大きい屋敷ですからね、あってもおかしくないんですがね。

板谷 そちらも探してくださいよ。

水無 女性に働かせるんですか？

板谷 いや、別にそういう、あれじゃあ（もごもご）

るの なぜか携帯は圏外だし・・・

水無 なぜか電話線も切れていました。なぜか。

板谷 ああもう、いったいなんでこんなことに。

煤竹 もう一度ドアが開かないかやってみますか

るの 煤竹さん・・・

板谷 どうせ無理だよお

るの そういうこと言わないでくださいよう！

板谷 だってえ・・・

水無 まあおそろく無理でしょうね。

るの えー。

水無 どういう原理でドアが開かなくなってるのかわかりません。

煤竹 確かにそうですね。

板谷 何か、つかえてるとかじゃないんですか？

水無 それにしては、びくともしないのがおかしいです。

るの セメント！セメントで固められたとか！

水無 セメントはそんなにすぐ固まるわけじゃありません。

るの しゅん。

水無 それに：偶然開かなくなった、というわけじゃなければ、外に誰かがいて、

人為的に私達を閉じ込めた、ということになります。

煤竹 それもまた、考えにくいですね。

板谷 え、でも、何かしらの仕掛けで内側から閉めたのかもしれないじゃないですか。

水無 私が入ってきた時、それらしい動きをした人がいますか？

るの 多分・・・いなかったと思います。

板谷 ドアを閉めたのはあなた・・・

煤竹 煤竹です。

板谷 煤竹さんですよねえ。

るの 煤竹さんがそんなことする理由がないじゃないですか！

水無 それを言ったら、ここににいる人には誰も理由がないんじゃないですか？表向きは。

るの あ、わかった！

水無 なんですか？

るの この人がこの女の子と一緒にいたかったから閉じ込めたんですよ！

板谷 なんですか！

るの ロリコンじゃないんですか？

板谷 それとこれとは話が違いますよ！

煤竹 否定はしないんですね。

板谷 女性は全て素晴らしいんです！

るの きもい！

板谷 ありがとうございます！

るの ううー。

煤竹 表向き、というと？

水無 ええ。何かしら、隠された事情を持つてる人がいるんじゃないかな？と。

るの じゃあもうこの人ですよ！

板谷 おいおい、なんでだよ！

るの 怪しいですもん！

板谷 そんなこといったらこの人が一番怪しいだろ！

水無 ……

板谷 あ、すみません

水無 いえ、そうですよね。扉を閉めたのは煤竹さんですが、最後に入ってきたのは私です。

板谷 す、すみません。

水無 いえ、別にいいです。みなさんを味方にしたいってこういうことをしているわけじゃありませんから。

るの というより…

水無 なんですか？

るの なんで、飛び込んできたんですか？

板谷 あ、それ気になってた

水無 私は、扉が一度閉まると、開かなくなることを知っていたからです。

煤竹 そうなんですか？

水無 ええ。噂が真実なら、ですけど。
るの 噂・・・？

みなさん、知らないでここにいますか？捕えた獲物を逃がさないよう、
閉じ込められるんです。この屋敷には・・・吸血鬼が棲むと言われているんですよ。

扉の開く大。

蒲田、入場。

るの きゃあ！
水無 おでましのようね・・・噂の、吸血鬼さんが・・・

雷鳴。シルエット？

蒲田 ううう・・・
煤竹 ん？あれ？

板谷 扉あいてる！わああー！

蒲田 あ、あ、あの！

板谷 う、うわあー！

蒲田 あのですね！

るの いやああああ！

蒲田 ちよ、ちよっと！

板谷 ここから出してくれー！

蒲田 いや、あの、僕の話聞いてください！

るの いやああああああ！

蒲田 一刻を争うんです！

板谷 いや、あの！

扉、閉まる。

板谷 あー！
水無 だめ、また開かなくなってる

るの 何やつてるんですか！
 板谷 ご、ごめんなさいー
 水無 外からは普通に開くのか・
 煤竹 どうしたんですか？
 蒲田 こ、ここに住んでる方ですか！？
 煤竹 いえ、違いますけれど・
 蒲田 じゃ、じゃあ、あなたは？！
 るの ちがいます、なんですかつ
 蒲田 あなたは？！
 板谷 違いますっ
 蒲田 あ
 水無 違います
 蒲田 はいっ。君は！？
 鵜川 う・・・あ・
 るの 怖がつてるじゃないですか！
 煤竹 君も、雨宿りなんだよね？
 鵜川 (頷く)
 蒲田 そ、そう、なんですか・わかりました・ありがとうございました開かない！ドアが開かない！なんでだ！
 るの ああ・・・
 水無 あの、あなたは？
 蒲田 あ、ええと、蒲田っていいです。
 水無 あなたはこの家の家主ではないんですね？
 蒲田 え？あ、はい。
 煤竹 それで、この家の家主さんに会いたい、と。
 水無 なぜこの家の家主に会いたいのです？
 蒲田 いや、その・吸血鬼に、会ってみたいくつて。
 水無 ならもう叶ってるんじゃないですかね。
 板谷 ・・・え？
 るの 何言ってるんですかー
 煤竹 どういうことです？
 水無 いやなに、もしかしたら、私達の中に吸血鬼がいるんじゃないか、と思ってるね。

雷鳴。

煤竹　・誰かが嘘をついている、っていうことですか？
水無　ええ。そう言っています。

るの　じゃあ・この人ですね！

板谷　ああん、もう、くると思った！
水無　なぜ？

るの　だって私達が雨宿りにきた時、この二人だったんですよ。この子を誘拐してきたんですよ！
板谷　違いますよ！ね！？

鵜川　（おびえて顔を膝にうずめる）
板谷　しゃべってくれー！心開いてくれー！

水無　どんなひどいことをしたんですか
板谷　その線で話しを進めないでください！っていうか、大体、二人でたまたまこんなところまでくる、あんたらも怪しいんじゃないか！

水無　いや、カップルが人気がないところに来るのはある意味自然の摂理ともいえるのでは
板谷　えっ、そうなの？知らなかった。

るの　カップルだなんてー、もー、やだー
煤竹　・

水無　ん？違うんですか？
るの　はいー。今日会ったばかりですっ！ね？

煤竹　そうですね。
水無　どういことですか？

るの　運命的にいー、出会っちゃいましたっ
煤竹　僕が彼女に興味を持って声をかけました

水無　ナンパですか。
煤竹　はい

るの　違いますうー
水無　黙れ

るの　え？なんで？え？え？ごめんなさい。
蒲田　なんかザ・吸血鬼の手口、って感じですね…

板谷　今日の晩御飯捕まえた、って感じじゃないですか。
水無　まあ、もしかしたら、彼女が自分に食いついてきた人を喰らおうとしてる可能性もゼロじゃあないけれどね。

蒲田 なるほどなるほど。

るの え？えー？

煤竹 そう思われると思ったから、言いたくなかったんですよ。僕らの中は疑われて然るべきものですからね・・・。

るの 私は信じてますよっ！

煤竹 うん、ありがとう・・・。

蒲田 じゃあ、あの、すみません、吸血鬼さんにお話ししたいことがあります！

煤竹 ちよ！違います！僕はそうじゃないです！

蒲田 ええー、困ります！

煤竹 僕も困ります！

るの え！？煤竹さんが吸血鬼なんですか！？

煤竹 今までの話聞いてた！？

るの 違いますよね？

煤竹 違います！

るの ほら、違うつて！

水無 じゃあいったい誰が？

煤竹 噂は噂で、いないのかもしれませんが。

水無 ・・・・実際、被害がでてるんですよ。ここで。

煤竹 そ、そうなんですか？

水無 ええ。

るの はい！じゃあその子とか怪しくくないですか？

鵜川 (驚く)

煤竹 さすがにそれはないんじゃないか？

水無 ・・・・板谷さん

板谷 はいっ

水無 あなたが雨宿りに来た時、すでにこの子がここにいたんですね？

板谷 そうっすねそうっすね

水無 ふーん・・・

鵜川 (言葉にならないうめき声)

板谷 君が、吸血鬼なの？

停電。

るの きゃー！
板谷 ひいひい！
蒲田 停電ですね
煤竹 落雷ですかね？
るの いやああー！！！！
水無 静かに！落ち着いて！
るの はい！！
板谷 うわあああああ！！
水無 だから静かに！

明るくなる。板谷、倒れている。

煤竹 えっ
るの ちょ・・・どうしたんですか！？
水無 気絶している。
蒲田 どうして・・・ああつ！
煤竹 どうしました？
蒲田 こ、ここ、見てください・・・
煤竹 これは・・・
水無 吸血鬼の噛み痕だ・・・
るの いやー！
蒲田 なんでだー！くそお！どうして！
鵜川 (震えている)
煤竹 落ち着いてください！
蒲田 これが落ち着いていられるか！
るの もう、その子で決まりじゃない？
煤竹 水無さんもそう思いますか？
水無 7割、ですかね。
煤竹 ・・そんなわかりやすいこと、しますかね？このタイミングでこんなことになったら、疑いが集まるのは自明の理。
るの じめいのり？

蒲田 確かに。それに、こんな小さい子が・・

水無 吸血鬼は不老不死でしょう。年齢と外見は伴いませんよ。

煤竹 それならなおさら、すぐ正体がばれるようなことしますか？

水無 吸血鬼は、怪力無双、変幻自在、神出鬼没と言われています。別にばれても問題ないのでは？

煤竹 だとしたら、なぜ停電を？

るの わかった！

煤竹 え？

るの この人が気持ち悪くて耐えられなかったんだよ！

煤竹 そんな

水無 見た目通りの性格で、ということですか

るの でしょー？

板谷 う、ううーん・・

蒲田 あっ！目を覚ましそうですよ！

るの 気持ち悪い・・

蒲田 ひどいですね。

水無 気を付けてください・・吸血鬼に噛まれた者も吸血鬼になると言います・・

煤竹 そ、そうか・・

板谷 ん・・あーよく寝た！あ！ごめんなさい、こんなタイミングで居眠りしちゃって！

水無 ん？

板谷 ちょ、どうしたんですか？

るの こないで！！

板谷 え、そういう感じだとは思ってたけれど、やっぱりちょっと傷つくなあ。

るの こないで！

板谷 そんなこと言われたら、行ってみたくなくなっちゃうぞつ！（寄る）

るの ぎゃああああ！

板谷 ん、ちよつと楽しい。

るの 変態！

水無 あの

板谷 はいなんですよ。

水無 体は・・なんともないんですか？

板谷 なぜですか？

煤竹 腕、見てくださいよ。

板谷 やや！これはなんですか！

煤竹 恐らく、吸血鬼の噛み痕です。

板谷 え！じゃあ自分、今、吸血鬼なんですか！？

水無 その可能性が高い、という状況です。

板谷 ええ、どうかなあ。うーん。あ、血、めっちゃ飲みたい。生まれて初めての感覚だ。

え、血飲めるのかな？どうだ？うん、あれ、いけるな。いける気がする。ちよ、誰かいただけませんか？

るの きもいきもい！

蒲田 あ、じゃあ僕が・・・

水無 何言ってるんですか！

板谷 男かあ・・・まあ仕方ないから失礼しまーす

水無 てえーい！

蒲田 あうう。

水無 何やってんですか！

蒲田 噛んでいただこうと・・・

水無 いいですか、吸血鬼に噛まれた人に噛まれても、吸血鬼になるんですよ！？

蒲田 それが目的なんです！

水無 えっ。

蒲田 あの・・・僕、もう、余命幾ばくもないんです。吸血鬼って、死なないとか、死体が蘇って、とか言うじゃないですか。

煤竹 だから、僕も吸血鬼になれば・・・って思ったんです。

板谷 そんな事情があったんですね・・・

水無 うんうん。

板谷 だからといって、その考えは安直で危険です！

水無 でも実際、めっちゃ元気になりますよ。今僕めっちゃ元気ですよ。ひゅっひゅっ。

蒲田 で、ですよね！

水無 だめです！

蒲田 う、うるさい！死にたくないんだ！

板谷 あ、じゃあ、いただきます！

水無 あ！こら！

蒲田 あっ、あゝ・・・うん、採血されてるみたいな感覚。

板谷 うえ、鉄の味だ。うえ。おいしい。

蒲田　これで僕も、吸血鬼になったんですかね？
板谷　うーん・・あ、でも、なんか、テンションあがってきました。ふー！
蒲田　ふー！

水無　なんてことだ・・くそつ。でも、これで、私を含めたこの4人の中に、本物の吸血鬼がいることになるわけですね・・
るの　えー、じゃあ絶対あなたかこの子ですよ！
水無　どうして？

るの　煤竹さんはいい人だから！
水無　恐ろしい子・・。
煤竹　本当ですよ・・そんなことだから、騙される。
るの　え？

煤竹、るのに噛みつくこうとする。
それを水無、制する。

煤竹　くっ
水無　やはりそうでしたか。
るの　煤竹さん！？
煤竹　被害者が出てしまったことが悔やまれますが・・これで、取り抑えました。
煤竹　取り抑える？そんなこと、できませんよ！

水無、吹っ飛ぶ。

水無　ぐあああー！
煤竹　怪力無双ですからね。
るの　そんな、本当に煤竹さんが・・？
煤竹　ああ、すまないね。
板谷　なんてことだ！僕は男に噛まれたのか…！
蒲田　噛んだのも男ですしね。
板谷　くそお・・！
水無　もう正体を隠さないんですね。
煤竹　ええ。三対三。もう、力押しでいけると判断しまして。

るの そんな、そんな！
水無 やれるものなら、やってみなさい。私は、絶対に吸血鬼なんぞに、成り下がらない！

拓也、土田、入場

拓也 よくいった！

るの え！？

拓也 我々はヴァンパイアハンターである。安心したまえ！

土田 (一礼)

水無 ヴァンパイアハンター・・・？

煤竹 い、いったいどこから・・・？

拓也 被害届や噂の真相を確かめるために、屋敷内に潜伏していたのだ！な！

土田 (頷く)

水無 この人は・・・

土田 (言いかける)

拓也 部下の土田だ！

土田 (頷く)

水無 この人はしゃべらないんですか・・・？

土田 (頷く)

拓也 さあ、これで五対三だな！

蒲田 ど、どうしたら・・・

板谷 うう、僕は被害者だよ、人間だったのに噛まれて吸血鬼になってしまったよー

蒲田 あ！ずるい！

板谷 事実だ！

拓也 さあ、くらえ！十字架！

土田 (十字架を出す)

板谷 うわあああー！

蒲田 ひいっ・・・

煤竹 ・・・・

拓也 どうだ！

板谷 なんともない・・・

蒲田　ですね・・

拓也　ならば仕方ない・・にんにくだ！

土田　（にんにくをだす）

板谷　うわあ！

蒲田　にんにくだ！

るの　くさい！

煤竹　・・・

拓也　こ、これも効かないというのか？

煤竹　ハンターの割に、勉強不足ですね。

土田　なんだとおっ！

煤竹　十字架もにんにくも、海外における信仰や慣例から、吸血の弱点とされている物。信仰心の薄い日本人には、弱点足りえないのですよ！
拓也　し、しまった！くそ！どうしたら・ん・？信仰・日本人・そうだ仏教だ！土田！

土田　（数珠を出す）

板谷　あ、それ、なんか心が痛い。

蒲田　あー、うん、ちくつとする。

拓也　信仰心ー！

煤竹　一瞬焦ったが、なに、食事が増えたと思おうではないか、同胞諸君。

蒲田　は、はい。あ、血飲みたくなってきた。

板谷　なるよねー。不思議だよねー。増えたけど男か結局。

水無　させるか！

水無、ナイフを取り出し、煤竹を刺す。

るの　きゃああー！！

煤竹　不老不死、って説明してましたよねさつき。効きませんよ。

水無　くそっ。

煤竹　そして、文献にはこうも書かれてませんでしたか？吸血鬼は、蝙蝠や霧などに姿を変えることができる！と！

土田　ま、まさか！

煤竹　その・まさかさー！サーッ！（霧になる）

るの　煤竹さん！？

水無　消え・・た！？

拓也　なんてことだ・・・どこにいるのか、まったくわからない！

土田　(探す)

鵜川　(探す)

蒲田　す、すごい！

板谷　これができるようになればあんなことやこんなことが！

煤竹　ふはははは・・・どこにいるかわかるまい・・・

水無　くそう！(腕を振り回す)

煤竹　無駄無駄あ・・・！(時々当たる)

水無　くやしい！

拓也　いったい、何をする気だ！

停電。

るの　きやああー！

蒲田　なんかさ、そろそろ慣れようよ。

拓也　霧になってまで停電させるだどー？

水無　みなさん、気を付けてー！

明るくなる。

拓也　みんな！大丈夫か！

水無　はい！

鵜川　(けろり)

るの　いやああ！

拓也　どうした！

るの　私は大丈夫ですうううう！

拓也　・・・よかった！

土田　(膝落ち)

拓也　土田ー！

水無　叫び声もあげないのねこの人！

板谷　男、だな。

煤竹 さあ、これで四対四、再び同数だな。
 るの なんてことなの・・・
 蒲田 あ、え、今は、霧・・・？
 煤竹 いや、今は、うん、違う。
 蒲田 煤竹さん！
 水無 ヴァンパイアハンター・・・
 拓也 なんだいっ
 水無 まったく役に立たなかった・・・
 拓也 面目ないっ
 煤竹 石狩さん。
 るの はいっ。
 煤竹 君もこっちへおいで。
 るの え、あ、はい
 水無 待って待って待って！
 るの え？なんで？
 水無 なんでじゃなくて！なんでいくの？
 るの え、煤竹さんが好みだから・・・
 水無 バカ女！ば、バカ女！
 拓也 落ち着いて考えろ！相手は吸血鬼だぞ！血を吸い尽くされるに決まってる！
 煤竹 そんなことしませんよ。仲間にしようとしてるだけです。
 水無 そんなことさせない！
 煤竹 あなたの意見は聞いていません。石狩さん？
 石狩 はい
 煤竹 どうします？
 石狩 えー、わかんない・・・
 煤竹 吸血鬼、どうです？
 板谷 あ、なんか、いいかんじっす。元気っす。テンション高いっす。
 蒲田 僕も長年苦しんできていた病気が治りました。
 板谷 十字架もにんにくも大丈夫だったし。
 蒲田 ねー。ほぼ弱点ないじゃん　って思いました。
 板谷 あ、血以外食糧ないんですか？

煤竹 いや意外となんでも食べれますし、ワインやトマトジュースでもある程度代用できます。
 蒲田 え、そうなんすか？思ってたよりゆるいー。
 煤竹 陽の光は、浴びすぎると火傷みたくなったりしますけど。
 蒲田 あー、そこはそうなんですね。
 板谷 でもまあ、基本ひきこもりなんで自分。
 煤竹 あー、やつぱり？
 板谷 ちよ、やつぱり、つてどういう意味ですか（笑）
 蒲田 でもまあ、太陽光で火傷つて、紫外線浴びてる普段も似たようなもんですもんね。
 煤竹 怪力無双、変幻自在、神出鬼没。
 板谷 霧にもなれて
 元気になる。
 蒲田 どうです？
 煤竹 なります。
 石狩 だからー！もー！
 水無 え、だって、悪いことないじゃないですか
 石狩 人間としての尊厳を失わないで！
 水無 尊厳・・・？難しい・・・わかんない・・・
 石狩 ああもうイライラすんな！
 煤竹 さ、石狩さん。
 るの え・・・
 水無 だめですよ！
 板谷 大丈夫大丈夫！
 蒲田 みんな一緒だよ！
 るの んー、じゃあ！
 土田 （立ち上がる）
 拓也 土田！
 煤竹 目覚めたようですね。さあ私達のところへ。
 水無 くそ・・・！
 拓也 大丈夫だぞ、土田！さあ、ワクチンだ！
 土田 （注射される。痛い）
 拓也 さあ、どうだ！

土田 (治った)

煤竹 え！

拓也 さあ、これで五対三だ。

板谷 あれ：それあれば、僕らも治るんですか？

拓也 治る！（断言）

板谷 え、あー、まじかー

煤竹 ちょ、ちよつと？

板谷 いや、確かにデメリット少ないしメリットも大きいんですけど、なんかやっぱ、人間やめるってなると、ちよつとびびる、っていうか。

るの あー！わかるー！

板谷 ね！

るの 気安く話しかけないでよ！

板谷 どうしたらいいんだ

拓也 それが正常な判断だ！さあ、こっちへ！

るの ええー・・どうしよつかなあ・・

煤竹 石狩さん！

るの ほら、こっちのが人数多いしー。

拓也 自分の意思がないんだな！さあほら君も！

蒲田 い、いやだ！

拓也 なんだって？

蒲田 だって、吸血鬼じゃなくなったら、僕はまた病におびえる日々なんだ！

水無 だからって吸血鬼になるのか！

蒲田 死にたくないっ！死にたくないっ！

拓也 とてもむずかしい問題だ！

水無 ええい、貸してください！

拓也 もってけ！

蒲田 いやだあー！（逃）

板谷 え、あ、ちよつ

水無 (板谷に注射する)

板谷 あ、あー。治ったー。テンション戻ったー。
煤竹 させるか！

煤竹、板谷を噛む。

板谷　いたつ。お？テンションあがってきたー！
水無　くっ（注射）

板谷　あー。

煤竹　（噛む）

板谷　ひゅー！

水無　（注射）

板谷　あー。

煤竹　（噛む）

板谷　ひゅー！

水無　（注射）

板谷　あの、これって・・

煤竹　（噛む）

板谷　僕の血がなくなってくだけですよねー！？HI☆N☆KE☆TSU！

拓也　（蒲田に注射する）

蒲田　あつ！あー、元気なくなってきたー

煤竹　くそっ！板谷さん！仲間を増やすんです！

板谷　は、はい！

るの　いや！この人だけに噛まれたくない！煤竹さん！煤竹さんきてー！

煤竹　ワガママ言わないの！（1を噛む）

拓也　ぐああー！

土田　（拓也に注射する）

拓也　助かった！ありがとう！

水無　全員解毒しきってやる！

煤竹　全員吸血鬼にしてやる！

音楽。

みんな噛まれたり注射しあったりする。

煤竹、注射を打たれそうになるところを飛び退いて避ける。

水無
煤竹
・・・そんなに、驚かなくつても。
・・・

板谷
ど、どうしたんですか？どうしたんですか？

水無
吸血鬼っていうのは、本物も、ワクチンで治っちゃうんですか？

拓也
いや、そんなことはない。本物は、吸血鬼そのものであって、

ワクチンで治るような物ではない。

水無
じゃあ、そんなに怖がらなくていいじゃないですか。

それとも：煤竹さん。あなたの吸血鬼は、治っちゃうんですか？

板谷
な・・・なんだってえー！？

それって：つまり：どういうこと：？

煤竹さんも噛まれて吸血鬼になった可能性があるってことですよ。

るの
な・・・なんですってえー！？

水無
ど、どうしました

るの
それが本当なら、煤竹さんは、人間！結婚、できる！

水無
うるせえー！

拓也
だからといって、それならそれで、吸血行為に及んでいた

というわけで傷害事件になるな。

まあとにかく。私達と同じ目線に立って、話してもらいましょうか。

煤竹
・・・くっ・・・

煤竹
う・・・うわあー！（水無に襲い掛かる）

煤竹
ばか！

水無、煤竹をいなす。

が、煤竹が怪力なので、いなしきれない。

煤竹
もう、もうやめてください！

水無
・・・やはりそうでしたか。

るの
かつこわるい・・・

拓也
どういことだっ。

水無
この子が、この屋敷に住む吸血鬼ですよ。

板谷
ええ！？

煤竹 もうやめてください。

板谷 いや！やめるわけにはいきません！

水無 そうです！

板谷 この子が吸血鬼なのだとしたら、だとしたら・・・

煤竹 それがなんだと言っんです！たとえ吸血鬼だとしてもこの子は

板谷 不老不死なわけだから、幼女じゃないじゃないですかー！

水無 う、うるせえー！

板谷 ごめんなさいっ！

煤竹 もう、もうやめてください！

水無 真実を話してもらえるのなら。

煤竹 はい・・・そよ。もうやめなさい。

煤竹 逃げて！捕まっちゃうよ！

煤竹 逃がしてもらえないさ。

煤竹 大丈夫だよ！

水無 だめです。どこまで逃げようとも必ず追いつめて捕まえます。ねっ。

拓也 え、あ、はい。

煤竹 あなたの考えている通り、ですよ。

るの わかんない。

蒲田 少しは自分で考えよう？

煤竹 この子、鵜川そよが、この屋敷の主にして吸血鬼だ。そして、僕は、この子に噛まれて吸血鬼となった。

煤竹 そう！だから、私が悪いんです！この人を操って、食糧となる人間を誘いこみ！

煤竹 つまり、実行犯は僕ということです。

煤竹 あ・・・でも、でも

水無 お互いかばいあったって、被害がでている事実に変わりはないんですよ。

煤竹 そんな、そういうことじゃなくて・・・

石狩 ねえ、煤竹さん、どうして吸血鬼に協力を？

煤竹 ……この子はですね、一人なんです。家族も誰もいない。

蒲田 たった一人で、この広い屋敷に住んでいました。それも、人間を襲わずに。

煤竹 襲わずに？

煤竹 僕が来てからです。人間の血を飲むようになったのは。

煤竹 それまではひたすら人間に迷惑をかけないように生きていました。

水無
煤竹

そのおかげで、衰弱しきっていました。興味本位で屋敷に入った僕に、生きるため仕方なく、見境なく襲い掛かってくるほどに。あなたが来てから人間の血を飲み始めた・・全部あなたが悪いんじゃないですか。

拓也

いずれも、血を吸われた本人からだ。

煤竹

吸血鬼では、ないんですね？

拓也

・・言われてみれば、そうだ。

煤竹

血を抜いて、ストックさせてもらってたんですよ。直接噛んだら、僕みたいに吸血鬼になってしまうから。

拓也

ふむう・・

水無

傷害事件になるわけね。

鵜川

う、うう

煤竹

確かにこの子は吸血鬼です！でも、彼女は生きるために血を吸っただけなんです！悪いのは、すべて僕だ！

蒲田

なぜそこまでその子に・・？

煤竹

わかりません。噛まれて吸血鬼になったからかもしれないし・・同情 というのが一番近い感情かもしれません。

水無

同情って、吸血鬼にか。不老不死の、怪物だぞ！

板谷

そうだそうだそうだそうだ！

鵜川

で、でも私は、まだ10歳だもん！

板谷

なんだってええ！？

鵜川

な、なんですか！

板谷

あのさ、思ったんだけど、ワクチンあるんだよね？

拓也

ありますよ。

板谷

じゃあさ？今後ワクチン使って戻って、噛まれて、ワクチン使って・・って、血を上げ続けたら、被害が出なくなるんじゃない？

拓也

それは・・・そうだな・・

蒲田

永久機関だ（？）

板谷

それに、ワクチン使っていいんなら、僕も、力を貸すよ。

鵜川

え・・？

板谷

僕の血でよかったら、飲んでよ！

るの

きもい・・ロリコン・・

板谷

ロリコンかどうかは些細な問題じゃないか！

蒲田

あ、関係ないわけじゃないんですね。

水無

ちよつと・・

蒲田

でも、考えてみると、僕も、吸血鬼にならないと生きていけないんですよ・・（鵜川の方に寄る）

るの 私も、吸血鬼になるのは嫌だけど、煤竹さんのためなら。
水無 何言ってるんですか。ほら、二人とも！
拓也 土田、いくぞ。

土田 (頷く)

水無 ちよつと・・・！？

拓也 ここに吸血鬼はいなかった。噂は噂でした。

水無 何言って・・・

拓也 いくぞ！

土田 ・・はいっ。

水無 しやべんのかよ・・・！

拓也、土田、退場。

鵜川 みんな・・・

煤竹 いいんですか・・・？そんなことしたら、どうなるか・・・

るの 構わないです！

蒲田 協力しないと、僕は死んじやうし。

板谷 意外と、吸血鬼も悪くなかったし、ね！

水無 何言ってるんですか。

るの 水無さんも、一緒に協力しましょうよー

水無 ふざけないでくださいよ！

蒲田 え、ええ・・・

鵜川 ねえ、どうして・・・！どうしてそこまで吸血鬼を憎むの！

水無 ・・・・私は・・・

るの きつとあれだよ、恋人とかを吸血鬼に襲われて失ってしまったんじゃない？

板谷 え、そんなありきたりな理由？

煤竹 ・・・・あ・・・

水無 ・・・・恋人じゃねえ・・・家族だよ・・・

煤竹 当たった・・・

るの すごい？すごい？

水無 ありきたりな理由で悪かったなあ！！

板谷 ひい！ごめんなさい！

水無 ありきたりだからなんだ！家族のこととか関係ない！そうさ、

私にどんな理由があろうと、お前にどんな理由があろうと、吸血鬼は悪だ！

板谷 え、でも

水無 あんだ？！

板谷 ちよ、ちよつと、空気・読みましようよ。

水無 ・・空気だあ？なんだ、あんたらは空気読んだ結果そちにいんのか

蒲田 違いますけど・・

水無 事情がどうであらうとなんだらうと吸血鬼は吸血鬼だろうがよー！かわいそうな境遇のロリータだからなんだってんだ！

じゃああれか？かわいそうな境遇のロリータなゴキブリがいたら味方すんのか？おおん！？

るの 怖い・・

板谷 いや、それはそうじゃないけどさ・・

水無 そういうジャパニーズな精神がよくねーんだよ、自分の意見を貫き通せよ、大きな意見に流されてるんじゃないよ！

煤竹 お、落ち着いてください！

水無 とにかく！私は、誰が何と言おうと、吸血鬼を排除する！からな！

みんな、ドン引く。

水無 たとえどんだけマイノリティだろうと、ね。周りの意見に流されてたまるか！

板谷 うん・・その気持ちはわかります。

水無 え、あ、う、うん。

るの その人は、気持ち悪いですね。

水無 ・・・・・うん。

るの ほら！

水無 同意見だったただけ！流されたわけじゃない！違う！ちがーう！！

音楽。

幕

※ 上演を希望する際は有料・無料に関わらず必ず劇団までご連絡を頂き、戯曲使用の許諾をお受けください。

tasuichi.tasuichi@gmail.com